

令和6年度 事業報告書
(令和6年5月1日～令和7年4月30日)

特定非営利活動法人 知のアトリエ

1. 特定非営利活動にかかる事業

(1) 那須キャンパス維持管理事業 事業費：4,496千円

・障がい者の雇用促進事業所（特例子会社）との協働によるキャンパス環境整備

令和4年9月より NTT データだいち那須事業所と契約し、那須校地維持管理業務を委託している。平日はほぼ毎日の常駐になり、日々の鍵開け、工事業者・配達業者その他の来客対応、入居団体対応および施設の外部利用希望者への対応、敷地の草刈りや館内清掃および簡単な修繕、虫や動物の侵入等に幅広く対処してもらっている。

那須キャンパス跡地は2022年に大規模修繕を実施したが、直しきれていない部分や施工が不十分だった部分もあり、さらにそもそも東日本大震災の被害を受けてから未だ修繕できていない箇所も多い。そうした箇所の点検や簡単な修繕にも対応してもらっている。

また、近隣の森林ノ牧場にて作業を行っているだいち社スタッフの昼間の休憩場所としても活用されている。

・新規入居企業、団体の募集

「新しい学びのプラットフォームづくりを通じて次世代の教育に資する」という知のアトリエの理念に賛同してもらうことを条件に、那須キャンパスを活用する企業・団体を随時募集している。今年度は新たに1団体が入居した。

(なお、各団体とは賃貸契約等は結んでおらず、新しい学びのプラットフォームづくりに向けた共同研究を実施するために場所を提供している形になっており、当団体および海城学園には賃貸収入は発生していない)

新規入居団体

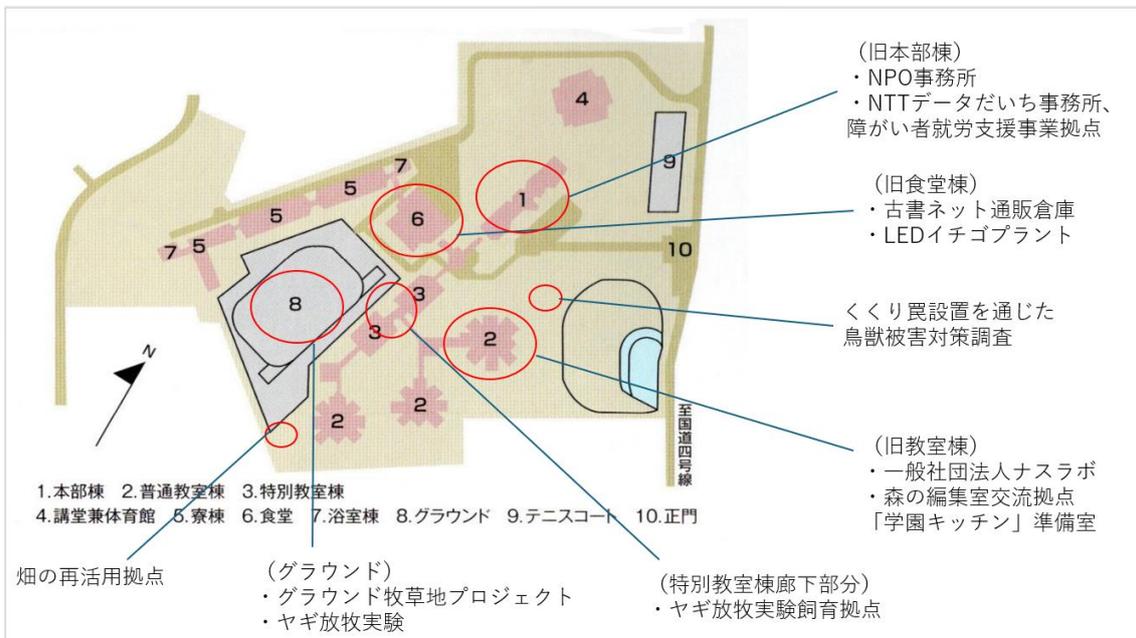
団体名	入居開始月	入居場所	共同研究取り組み内容
ジャパンマシニスト社、森の編集室	R6.3～	教室棟	交流拠点「学園キッチン」の設立準備

既存の入居団体

団体名	入居開始月	入居場所	共同研究取り組み内容
-----	-------	------	------------

NTT データだいち那須事業所	R4.9～	本部棟	那須キャンパス維持管理業務、障害者就労支援事業など
森林ノ牧場株式会社	R4.10～	グラウンド	グラウンド牧草地化チャレンジ
ゆいま～る那須・農業プロジェクト	R4.8～	その他	那須海城生が使用していた畑の再活用
一般社団法人 nasu lab	R5.5～	教室棟	ローカルラジオの運営、那須町への移住支援、若手人材育成事業 など
一般社団法人 日本みどりの食料システム推進協議会	R5.7～	食堂棟	LED 植物プラントによるイチゴ等の栽培

キャンパス活用状況マップ



・映画音楽PVロケ地、ポスターロケ地、イベント用地の利用促進

管理が行き届いており、かつ自由度の高い使い方ができるという強みを活かし、各種ロケ地やイベント用地としての外部利用受け入れが増えてきている。

ロケ、イベント等実施状況一覧

団体名	利用月	用途
ナスラボ、那須町ふるさと定住課	随時	那須町移住 PR ポスターの撮影

ナスラボ	6月	那須町ご当地アイドル「ゆめな」の第5代目のオーディションを開催。第1次審査を勝ち抜いた5名が、初の試みとしてオーディション形式による最終審査に参加
ナスラボ	9月	「クロロとゆめな」4代目ゆめな卒業式 飲食 / レクリエーション（楽器演奏やボードゲーム、花火など） / 宿泊（希望者・テント） 人数：15名
主人公コミュニティ 「onStage」	9月	教育に携わる学生や社会人による学びのコミュニティ団体さんによる夏合宿の実施 人数 10名

・企業や団体、旧那須高原海城学園卒業生の視察受け入れ

オフィス利用や研究開発拠点候補地としての見学ニーズも増えてきている。

映画ロケ地、CMロケ地としての那須キャンパス活用を後押しするため、「那須フィルム・コミッション」とも連携し、那須町周辺や東京都内から各種企業や団体の視察を随時受け入れ対応を行った。

また、旧那須高原海城学園卒業生の来訪も増えており、受け入れ体制の拡充や卒業生向けの展示ブースなどの設置も今後行っていきたいと考えている。

視察受け入れ状況

オフィス、研究開発拠点利用見学	5件
ロケ地視察	3件
旧那須高原海城学園卒業生来訪	10件

・自販機の設置

キャンパス跡地の周辺地域には自販機がなく、最寄りのコンビニまで5分ほど掛けて飲み物を買うに行く状況が続いていた。入居者や来客への利便性向上を図るため、自販機の設置に向けて設置工事を進めている。現在事前の電気工事が終了し、5月に最終的な設置工事が完了する予定となっている。

・ウェブサイトによる情報発信

アクセス解析を導入し、表示数の記録を行っている。古書寄付関連ページのアクセスが多い形となっている。今期より月2~3回の頻度で活動報告の発信を行うようにしており、NTTデータだいち社のスタッフが取り組んでくれている。一部記事がアクセス数を稼いでいるものの、上位の固定ページが圧倒的に伸びているのに比べると見劣りはしてしまう。内容を検証しつつ、引き続き幅広く情報発信を行っていきたい。

ウェブサイト表示数と訪問者数

年	表示数	訪問者数
2024年5月～2025年4月	3,760	1,280
2023年5月～2024年4月	3,548	1,268

読まれているページ（2024年5月～2025年4月）

ページ名	表示数
知のアトリエ×NTT データだいち 古書寄付プロジェクト特設サイト	1,007
トップページ	852
団体概要	254
活動報告一覧	254
わたしたちについて	219
事業内容	173
(以下参考)	
5代目「ゆめな」のオーディションが開催されました	69
入居団体さんとの意見交換	58

（2）新しい学びのプラットフォームを作る事業1：都市住民への学びをつくる事業
事業費：0円

・大企業若手社員向けダイバーシティ研修事業

NTT データ社が若手社員向けに実施しているダイバーシティ研修に当団体が講師役として参画している。同社で実施している研修メニューの1つに那須およびNTT データだいち社の取り組みを視察するプログラムが提供されており、若手社員が2泊3日で那須に滞在して持続可能な社会実現に向けた各種取り組みを学んでいる。滞在期間中は那須キャンパスが主な活動拠点として活用されている。

今年度は当団体からNTT データ豊洲本社へ訪問し、若手社員に豊洲で実施されている古書寄付収集プロジェクトに一日密着してもらおうという方式で実施された。代表尾野による取り組み紹介を実施し、古書を通じた障がい者雇用の創出の意義といったテーマでレクチャーを行った。また実際にNTT データだいち社の障がい者雇用の取り組みに半日密着してもらい、大企業による障がい者雇用の可能性と課題について若手社員が深く考える機会を提供できたと考えている。

引き続き、都市住民向け研修事業として知のアトリエの事業の柱の一つに位置づける計画にしている。

研修受け入れ状況

日時	内容	対象	参加人数
2024年7月	NTT データ若手社員 DE&I 研修（豊洲本社）	NTT データ豊洲本社に勤務する若手社員	7名

(DE&I は、Diversity, Equity and Inclusion : 多様性・公平性・受容性の略語)

・「知のアトリエ」拠点アイデアを考えるツアー事業

「那須で「知のアトリエ」拠点アイデアを考える 2泊3日ツアー」第2回開催および、夏休み期間を利用した海城学園生徒向けツアーを計画していたが、各種イベントやオフィス利用入居者の対応に多忙であったことから実施を見合わせた。現在、高校生が夏休みの期間（2025年8月）を活用してツアーを開催する方向で調整している。

・校舎跡地を利用した LED 植物プラント栽培試験共同研究

食堂棟の入居団体である「一般社団法人 日本みどりの食料システム推進協議会」の協力の元、令和5年7月より LED 植物プラントによるイチゴ等の栽培試験を実施している。

現在、約 300 平米、主力のイチゴは 4 品種が栽培されており、試験データの蓄積が進んでいる。その他にもバナナおよびパイナップルも栽培している。エアコン 24 時間稼働で徹底した温度管理が行われ、一年中栽培可能な環境が実現している。

後述の「大日向マルシェ」にて見学ツアーも実施し、地域住民にもプラント栽培風景を見学してもらうことができた。

(3) 新しい学びのプラットフォームを作る事業2：地域住民への学びをつくる事業（地域づくり連続講座事業） 事業費：0円

・フレイル予防体操体験会の開催

心と体の働きが弱くなってきた状態をフレイルと呼び、年令を重ねると外出する機会も減ることから、病気にならないまでも手助けや介護が必要となってくる。フレイルを予防するための家庭でもできる適度な運動を学ぶ講座を複数回に渡って開催した。日本体育大学名誉教授の荒木先生をお招きして近隣の高齢者を中心に好評を博した。

今年度は体操を地元で指導できる指導者の育成、特に「つながりの場」・「健康な場」「楽しい場」の場作りのリーダー育成に特化し、「那須町介護予防体操リーダー養成講座」と題して連続講座を実施した。町民リーダー9名・保健福祉課関係9名が指導者の「心構え」「指導上の留意点」「理想の体操レッスン」等の講義を集中的に受講した。参加者の間違いを正さない指導を心掛けることや、指導者はエンターテイメントになりきるといった内容に参加者も大きく関心を寄せていた。

今年度多くの体操リーダーが育ったことから那須町での体操活動の今後の推進を図るこ

とを目的に、「みんなの集い in 那須」と題した体操講演会が2月に開催された。生涯学習課は50名と予想していたが遥かに上回る124名の町民が参加し盛況となった。

体操を行う上で「間違い・失敗」は全く問題無いとのアドバイスがあり、間違えすらも笑いに変え、安心して体操を楽しんでいた。80才オーバーの方々も含め90分のレッスンをほぼ全員が最後までやり遂げており、健康志向の高さが伺えた。

体験会実施状況一覧

日時	イベント名	講師・協力団体・メディア掲載等	参加人数
令和6年6月	那須町介護予防体操リーダー養成講座 第1回	講師：荒木達雄先生（日本体育大学名誉教授） 協力：那須町保健福祉課	18名
令和6年7月	那須町介護予防体操リーダー養成講座 第2回	講師：荒木達雄先生（日本体育大学名誉教授） 協力：那須町保健福祉課	18名
令和6年10月	那須町介護予防体操リーダー養成講座 第3回	講師：荒木達雄先生（日本体育大学名誉教授） 協力：那須町保健福祉課	18名
令和7年2月	みんなの集い in 那須「体操講演会」	講師：荒木達雄先生（日本体育大学名誉教授） 協力：那須町保健福祉課、生涯学習課、さわやかネットワーク那須	124名

・那須キャンパスの草刈り効率化に向けた実証実験（ヤギ）

広大な敷地を活用した取り組みとして、ヤギの放牧実験を開始した。ヤギは1日中草を食べている動物であり、エサ代が大きくかからないことから手軽に始められる山林維持や耕作放棄地対策として大きく注目されている。キャンパスの維持管理を委託しているNTTデータだいち社が近所の牧場で牛の飼育の手伝いをしており、家畜の飼育には多くのノウハウが有ることから、比較的スムーズにスタートすることができた。

令和6年9月に福島県いわき市よりオス・メスの2頭を譲ってもらい飼育を開始、メス1頭が予防接種不備による寄生虫被害のためすぐに亡くなってしまうトラブルがあったが、地元から再び譲渡の話があり2頭体制を維持することができた。だんだんと飼育も安定し、冬季の草不足も心配されたが無事に乗り越えることができた。

ヤギが草を食べ、踏み潰すことで防草効果はかなりあることが判明してきている。草が生い茂る夏シーズンにどのような効果を発揮するか引き続き注目したい。

なお、現在メスが妊娠中ではないかとの獣医の診断もあり、対策を進めている。

ヤギ飼育状況

名前	性別	年令	導入月	特徴や飼育状況など
ツバサ	オス	推定2歳	2024年9月	福島県いわき市の牧場から譲渡

				元気すぎてよく暴れる
ボア	メス	推定 8 歳	2024 年 12 月	地元から譲渡 穏やか、4 月現在妊娠中？
(サキ)	メス		2024 年 9 月	寄生虫のため 11 月死去

・皮むき間伐体験学習会の開催

敷地内の樹木の前向きな活用のために地元の 4 公民館および NPO「1000 年の森を育てるみんなの会」との協力で、町内小学生向け「皮むき間伐」イベントを継続して実施している。

通常、伐採木の搬出にはとてつもない労力を必要とするが、最初に皮を剥いて水分を蒸発させることにより、軽量化して楽に搬出できるようになる。

今年度も 8 月に旧那須高原海城学園の校地内防風林において、「皮むき間伐」体験が行われ、10 家族の参加があった。町役場の方の自前の恐竜の着ぐるみのお出迎えで和やかな雰囲気スタートし、森を育てることの重要性、間伐する意義、SDG'S の考え方といった児童の学習に役立つ内容の講義が行われた。

その後実際に防風林まで繰り出し、根に近いところの樹皮に傷をつけて、子供たちが皮むきの実践を行った。「新しい学び」の提供、そして敷地内の立木整備に向けて次年度以降も取り組みを継続させていきたい。

・マルシェ開催と那須キャンパスツアー事業

「地域で循環する暮らしをみんなでいっしょにつくるオーガニックマルシェ」をコンセプトに、春～秋の期間に那須町内で開催されている「大日向マルシェ」を、番外編として「知のアトリエ」での開催が実現した。普段は冬季期間は休みにされているが、建物の中なら天候を気にせず開催できるということで、2025 年 4 月に企画が実現した。

パン、農産物、弁当、コーヒーなどの他、紛争問題をテーマとした映画自主上映会やハンドメイド雑貨制作を体験できるワークショップ、アレルギー対策の普及啓発活動ブースなどが設けられ、多くの方で賑わった。推計で 150 名の来訪があったとの主催者からは報告されている。

当日は知のアトリエでも古本コーナーの出店を実施し、さらに代表尾野が「キャンパスツアー」と題して午前と午後の 2 回にわたり敷地内も案内し、合計 30 名の方に知のアトリエの取り組みを紹介した。ジオラマを囲みながら那須キャンパス再生に至る経緯を説明し、古書寄付とネット通販の取り組みやヤギ放牧の取り組み、さらに LED 植物プラント栽培試験も案内し、非常に好評であった。

桜もちょうど見頃で大変に充実した 1 日となった。来年も冬季期間に当キャンパスにて開催予定にしている。

・グラウンド牧草化チャレンジ

近隣にある「森林ノ牧場」さんとは、旧那須高原海城学園の時代から生徒が牛の飼育などの手伝いを行うなど交流が続いており、現在も協力関係が続いている。

2023年頃に発生したいわゆる「輸入飼料ショック」への対応から、グラウンドを牧草地として転用できないかとの相談を受け、(おそらく)日本で初となるグラウンド活用の試みが続いている。踏み固められたグラウンドが果たして牧草地になるのか手探りの状態であったが、様々な工夫で牧草の収穫ができる状態になっている。

食料自給についての学び、グラウンドの活用の新たな可能性などを考える実証実験として引き続き取り組んでいきたい。

・くくり罠設置を通じた鳥獣被害対策調査

くくり罠(輪状のワイヤーで動物の足をくくる罠)を実際に設置・運用することで、鳥獣(主にイノシシやシカなど)の出没状況や被害の実態を把握し、効果的な被害対策を検討・実施するための調査活動を行っている。

那須町地域おこし協力隊の木村氏(免許所持者)の鳥獣被害対策に当団体として調査協力を行っている。2024年8月にnasu lab.事務所前の敷地に生態調査のくくり罠設置が完了した。定期的に監視し、鳥獣被害の調査を行っている。

(4) 古書寄付受付および販売事業 事業費：1,122千円

NTT データグループと提携を行い、那須町の障がい者就労支援のために同グループ社員から古書の寄付を募るプロジェクトを2022年から実施している。「みんなの本の寄付で障害者の支援ができるモデル」を通じて、新しい学びのプラットフォーム作りを目下進行中である。

今期も年間を通して那須キャンパスの本部棟および食堂棟を活用したネット通販古書事業を実施した。NTT データだいち社に業務委託をする形で出品業務、発送業務、在庫管理業務を行っている。

古書の寄付を通じてグループ会社の障がい者就労が応援できる、という点がNTT データ社の中でもだいち認知されるようになり、古書の寄付数は年々増えている。

主に宅配便着払いを利用した寄付受付を行っているほか、同グループ豊洲本社のNTT データだいち社オフィスに本を持ち寄ってくれる方も増えており、様々な形態の寄付ニーズに応えられる体制が整った。2024年7月にはNPOのスタッフで豊洲本社を訪れ、3日間にわたり朝の出勤時間帯に寄付受付カウンターを設置し、チラシ配布等を通じて古書寄付の認知度向上に向けた活動も実施した。

また、ネット通販に向かない本も一定数出てくるため、そうしたものの取り扱いが課題であったが、2025年4月に知のアトリエキャンパス内で初開催が実現した「大日向マルシェ」にて「古本市」コーナーを設置し販売することができた。好評であったため、常設で古書コーナーを設置することができないか検討中である。

古書寄付プロジェクト実施状況

今年度寄付冊数	4,385 冊
↳これまでの寄付冊数合計	↳9,088 冊
今年度独自仕入冊数	約 2,000 冊
出品済み在庫冊数 (独自仕入れ分含む)	約 3 万冊
今年度売上合計	1,532,558 円
NTT データだいち那須事業所の障がい者就労数 (2022年11月スタート時点からの比較)	+3名

・古書事業の非営利事業の取り扱いについて

古書の通販事業は一般的には収益事業に該当する事業であるが、本事業が団体の特性上以下の項目を満たしていることから、非営利事業として取り扱っている。

判定項目	詳細	判定
特に社会福祉に貢献すると認められる一定条件を満たしているか（法人税法施行令第5条第2項）	収益事業の範囲であっても、その事業に従事する者のうち半数以上が身体障害者、生活扶助者、知的障害者、精神障害者、65歳以上の者、寡婦等に該当し、かつ、その事業がこれらの者の生活の保護に寄与しているか	○（収益事業に該当しない）

【特定非営利活動にかかる事業に関する成果及び総括】

「新しい学びのプラットフォームづくりを通じて次世代の教育に資する」ことを目標とし、今期も様々な取り組みを行ってきた。今期は入居企業も増え、オフィス利用や研究開発拠点候補地としての見学ニーズも増えてきている。古書の蔵書量も増えてきており、食堂棟は既にプラントと本で埋め尽くされつつある。また、教室棟も入居時のリフォームを通じておしゃれなオフィスになり、若い世代のスタッフを中心に夜まで明かりがついている。

各種事業を通じてどのような「新しい学び」を提供しているか、以下のようにまとめた。

対象別「新しい学び」に向けた取り組み

誰を対象とした学びか		取り組み内容	何の学び・実践を提供しているか
都市住民	大企業社員	・NTT データ若手社員社員研修	・キャンパス再生と障害者就労支援の取り組みを知る ・豊洲本社にて古書の寄付および販売ブース運営に参加し、障がい者と一緒に働く体験をする ・地方の起業家の考え方や取り組みを知る
	新たな活動拠点を模索する企業人	・オフィス貸出事業 ・那須視察受け入れ	・地域の最前線で優れた起業家たちと次世代に向けた実践をする場を提供する ・地方を拠点にすることで新たな働き方があることを知り、事業が広がる可能性を知る
		・LED 植物プラントの設置支援	・「跡地利用×植物工場」の先端事例として広く人々に知ってもらう
	中・高・大学生	・拠点再生を考える2泊3日アイデアツアー	・地方における若手起業家などの様々な取り組み事例を知る ・拠点再生事例を知る
地域住民	シニア世代	・フレイル予防体操体験会、指導者養成講座 ・ゆいま〜る那須・農業プロジェクト	・予防医療の重要性を知り、実践する ・生涯現役で小さな手仕事を実践し続ける場を提供する
	小中高生	・未来を作るSDGs体験学習 皮むき間伐体験	・学校では体験できないリアルな学びと気づきを提供する
	若者～現役世代	・地域づくり連続講座	・何かを始めたいと思ったときの最初の一步の踏み出し方を知り、実践の場を提供する
		(冬季マルシェ事業)	(冬季に開催できない地域のマルシェとして場所を提供し、地域住民の小さな実践の手助けをする)
その他一般	漠然と地方に関心のある人	・古書寄付および販売事業	・古書の寄付を通じて、那須の取り組みを知る
		・活動報告ブログ等を通じた当団体の取組の発信	・キャンパス再生と障害者就労支援の取り組みを知る、拠点に集う起業家たちの事例や考え方を 知る、少子高齢化・担い手不足の解決に向けた人材育成の新しい手法を知る

(カッコ書きは未実施・実施予定事業)

その他、上記にまだ分類できない分野別の取り組み

分野	取り組み	何の「学び」を提供するか／今後の計画
障がい者の活躍の場の創出	古書寄付および販売事業	中高生や大学生のインターンなどを受け入れて、もう少し福祉そのものを学びとして提供できるようにしたい
災害に強いまちづくり	那須キャンパス・テント宿泊体験事業	災害の経験を積極的に発信していき、学びに変えていきたい
持続可能な農業	グラウンド牧草地化チャレンジ	「輸入飼料ショック」への対応、食料自給についての学び、グラウンドの活用の新たな可能性などを提供する
前向きな不登校支援	新しいフリースクールのモデルづくり	那須海城学園時代からつながりのある教育団体が実現に向けて模索中

引き続き、チャレンジできるフィールドの提供、学びと気づきの提供、時間と空間の提供を通じて、「次世代の教育に資する新しい学び」をモデル化していきたい。

2. その他の事業

- ・今年度はその他の事業については実施していない

